

33 世界にひびく伝統の音

教材の解説

「明珍火箸風鈴」は、平安時代末期から続く明珍家五十二代目の宗理さんが、これまで作っていた火箸を使って新たに作り出した風鈴です。明珍家が作るものは、かっちゅう、火箸、風鈴と、人々の生活の変化に合わせて変わってきましたが、伝統の技術は生き続けています。



みょうちんむねみち
明珍宗理さんと
けいそう
敬三さん



みょうちんひばしふうりん
明珍火箸風鈴
ひめじしやう
姫路城